

# 街を行く

第34回 ニューヨーク New York

## 昔と変わらぬ魅力と活気

いよいよニューヨークへやって参りました。ここは小生が20代の後半から5年間働き、暮らし、学んだ街です。当時は、日本が世界を席捲、何ごとにつけて日本経済がアメリカを超えたとされていました。よく言われたのは日米の企業経営システムの差。アメリカ企業は株主優先で長期的戦略が立てられず、その場しのぎの利益至上主義に走りがち。比べて日本企業は従業員の幸福を第一に考え、長期展望のもと目先利益を追わず、存続を旨とした素晴らしい経営スタイルだと。

好例としてよくトヨタがGMやクライスラーと比較されていました。何だか今の世論とは真逆ではないですかね。勢いがあつたあとのツケというのは怖いもので、バブル崩壊から失われた20年、いや30年はとてつもなく大きかったです。それにしても、いまだにトヨタの経営がGMやクライスラーより優っているのは立派の一言。

今回、ボストンやニューヨークを訪ねて、何よりも印象的だったのは、アメリカは総じて物価が高いということ。ハンバーガーやドーナツなど庶民的な食べ物までも高く感じました。驚いたのは日本でもお馴染みの定食屋チェーン。なんと価格は日本の2.5倍！それでも昼食時にはサラリーマンやOLが行列を成しています。ワンコインのお店が常態化している日本の台所事情、サラリーマンの懐事情を考えたら、何やら複雑な気持ちになって並べませんでした。

でも、この違和感って何なの？モヤモヤ気分をホテルに持ち帰り、しばらく考



通りを歩くと、いたるところに個性を感じ、ときめきを感じるニューヨーク・マンハッタン。街の個性や魅力は、そこにいる人の個性や魅力を反映している

えて「ああ納得!」。説明すると、われわれ日本人は長きにわたりデフレに慣らされてきて、モノの値段は待てばいずれ下がるものと思っている。日本では現実にもそうだったとしても、インフレが主流の諸外国では、それは当てはまらないのです。日本での現実がいかに世界から取り残されているのか。インフレ経済が良いというわけではありませんが、一日でもデフレからは脱却して、世界常識に違和感がなくなる程の経済は取り戻したいですよ。ニューヨークの素晴らしさを感じるのは、なんといってもマンハッタンを歩いた時です。小生、休日出勤の時はよく自宅から会社まで歩きます。その道すがら新橋・銀座・日本橋を眺めるのですが、どうも街の風景にときめきを感じないのです。それにつけて、五番街・マディソン・パークなどのアベニューを通りセントラルパークを抜けるルートは、何度歩いても飽きないし、その時々での発見さえあります。これって何が違うのか？日本は大通りでも裏通りに入っても、どこも同じだからで

個性を全面に出す民族との違いと言えばそれまでですが、いたるところ個性の光るマンハッタンはそれこそ街の魅力なのでしょう。国際化を目指し観光立国を目指す日本。むずかしいことは抜きにして、個性ある街づくりが重要なのです。でも、行政はすぐにそれを邪魔しがち。つまり、どこもかしこも規制緩和が必要ってこと。

### 南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ロースター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。

BLOG「南一弘の負けない不動産投資」  
[http://blog.livedoor.jp/minami\\_kazuhiro](http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro)